



2017 九州オープン選手権競技

競技報告 (2017/ 8/3-6)

写真と記事 : M. Kikutake

通算 13 アンダー 267

北村晃一 (ミッションバレー) 3年ぶり2度目の栄冠

ベストアマは多良間伸平 (ベルビーチ) が初の獲得

第 47 回の選手権は8月3日から4日間、福岡県小郡市の小郡カントリー倶楽部(6765ヤード、パー70)で行われ、通算 13 アンダー、267 をマークした 32 歳、プロ 9 年目の北村晃一(ミッションバレー)が3年ぶり2度目の優勝、優勝賞金 300 万円と、特別協賛「えんホールディングス」の副賞 200 万円の計 500 万円を獲得した。また、今年の第 82 回日本オープン選手権(10月12日から、岐阜関CC)への出場権も獲得した。

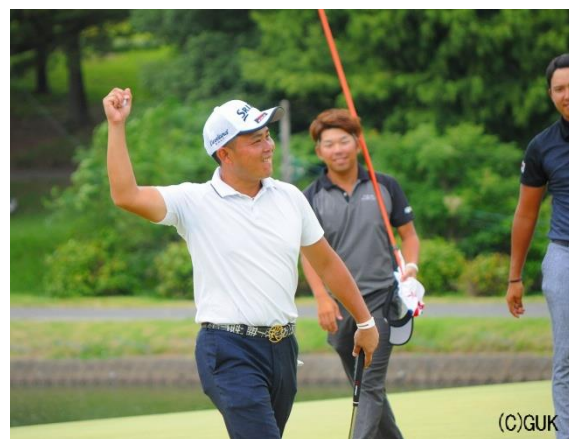
アマチュアは通算 4 オーバーの 284 で 28 位タイに入った沖縄・宮古総合実高 2 年、17 歳の多良間伸平(ベルビーチ)が初めてのベストアマを獲得した。



台風5号余波 風との戦いも

台風5号の北上で、風が強まる中での大会になった。

選手権には 143 人(うちアマチュア 27 人)が出場(欠場 1 人)。初日はプロ 3 年目、24 歳の小浦和也(フリー)、22 歳の成富晃広(シンセイテクノス)、今年の九州サーキット・トヨタカップで優勝しているプロ 2 年目、21 歳の蛭川隆(高千穂)と若手プロの 3 人が 5 アンダー、65 で首位に並んで発進。24 歳の出水田大二郎(TOSS)ら 5 人が 2 打差の 4 位タイにつけ、さらに 1 打差の 2 アンダー、9 位タイに北村ら 8 人など、アンダーパーをマークしたのが 25 人と混戦のスタートとなった。



2 日目は強まる風の中、ベストスコアの 64 で回った出水田が通算 9 アンダーとして単独首位に立ち、2 打差で成富、蛭川の 2 人。さらに 2 打差の 5 アンダーで北村と永野竜太郎(フリー)が続く展開になった。この日で予選カットが行われ、通算 4 オーバー、50 位タイまでの 62 人(アマ 4 人)が後半の

決勝ラウンドへ進出。前回優勝の小田龍一は（Misumi）は1打足りず、予選落ちした。

3日目は北村が1イーグル、6バーディー、2ボギーの64とスコアを伸ばし、通算11アンダー、199として単



独トップに立った。1打差の2位タイに出水田、蛭川の2人。さらに1打差、通算9アンダーの4位タイに永野と成富の2人がつけ、6位には14年の男子プロ賞金王でツアー通算8勝を挙げている小田孔明（プレナス）がこの日、ボギーなしの4バーディー、66で回り、首位に4打差と肉薄してきた。

最終日はいよいよ風も強まり、風との戦いにもなった。

そんな中で北村は出だしから2連続バーディーと幸先いいスタート。その後はきっちりと攻守の切り替えを見せて1バーディー、1ボギーで回り、後続の追撃を断って勝利を手にした。3打差、通算10アンダー、270の2位に出水田で、さらに1打差3位タイに永野と蛭川の2人だった。

アマチュアは初日、長崎国際大2年、安部寛章（ザ・クラシック）がイーブンパーの70でアマトップ（総合26位タイ）だったが、多良間が2日目66とスコアを伸ばしてトップ（10位タイ）に立ち、以後そのまま総合でも上位をキープしてベストアマに輝いた。セカンドアマ（総合30位タイ）は21歳の東海大九州4年、酒匂雅崇（チェリー鹿児島シーサイド）、サードアマ（同35位タイ）は45歳のベテラン、荒川英二（福岡雷山）だった。

なお、最終日の18番（パー3）では木村佳昭（浮羽）がホールインワンを達成した。

（写真⑤はウイニングパットを沈めてガッツポーズの北村晃一、⑥は多良間伸平のドライバーショット）



「狙って取ったタイトル」

日本オープン出場権獲得にかけていた北村晃一

もう、「テレビ番組の行列のできる…で人気の弁護士の息子」はいいだろう。3年ぶり2度目の九州オープン制覇。その姿は立派な一人のプロゴルファー北村晃一だった。

3日目が終わってトップに立った時、「勝ちたいと思ってここに来ている。勝って日本オープンの出場権を取りたい」と言い切っていた。結果から見れば、有言実行のラウンドだったようだ。1番（パー4）で1衦を沈めてバーディー、2番（パー3）でも12衦をねじ込んで連続バーディー。「あの2つが大きかった。今日の（強風という）コンディションだったら、あとはパープレーで回れば行ける」。事実、9番でボギーを打ったものの16番バーディーで取り返して、計算通りのラウンドで勝利をつかんだ。



仲間たちの手荒い祝福を受ける北村晃一

とは言え、実のところは、「3年前の喜瀬（沖縄）での初優勝時とは比べ物にならないほどプレッシャーがかかっていた」と言う。前は雨で中断、中断しながら、上がってみたら勝っていたという感じ。今回は、自ら組み立てた戦略に基づく、攻略。「今日は相手も見ながらうまく回れたし、じっとチャンスを待た」と振り返った北村だったが、3年前と比較して、「簡単にはあきらめないようになったし、その辺がちょっと成長したかな」と表情を緩めた。

昨年12月に結婚した夫人(32)が見守る中でのラウンド。「力になった？」の質問には、「ここは力になったと答えなきゃいけないんですけど、ラウンド中は自分のプレーの中に入るから…」。日焼けした顔を赤らめて言ったが、姿はしっかり目に入っていたようだ。

初めてのベストアマになった多良間伸平

〇…「散々な一日でした」とベストアマ獲得にもうれしさ半分といった様子だった。3日目を終わって5アンダーで7位タイ。それが、最終日は「バーディーを取りに行き3パットしたり、無理をして…」と79を叩いて、貯金がファイどころか、4オーバーの28位タイと急降下してしまったのだ。

しかし、学ぶところはしっかり学んだ4日間になったようだ。初めてのプロとのラウンドだったが、「ショットでは大きな差があるとは思わないが、プロは風の中では無理をせずにパーを取るゴルフをする。攻めるところ、守るところを考えたゴルフ。見習うところだと思う」と多良間。「次は4日間をアンダーで回りたい」と言った。



木村佳昭 2カ月で3度目のエース達成

〇…最終18番のパー3。ギャラリーが見守る中でホールインワンを達成し、喝さいを浴びた。

打ち下ろしの池越え。風はフォロー。196ヤードを6番アイアンでショットすると、ボールはカップ手前1ピンのところでバウンドすると、一直線だった。

話を聞くと、エースは生涯で5度の経験。ところが、「実はこの2カ月で3度目なんです」と。6月のJGTOチャレンジトーナメント(芥屋GC)でも17番で達成。このほか、プライベートでも1回あるそうだ。

小郡CCのメンバーでもあるし、ジュニアの時代から慣れ親しんだホームコース。庭のようなものだけど「試合では、知りすぎてよくない面もあって」と、通算3アンダー、10位タイの成績にちょっぴり不満も。